別紙様式1

令和5年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立幸崎中学校

a 学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 【ビジョン】（自校の将来像）	◎社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 ◎地域・保護者の期待に応える学校 ◎伝統や文化の継承を軸に成長する学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する。	基礎学力の向上	・家庭学習の習慣化やドリル学習の充実を図り、基礎学力の向上を図る。	・全国学力・学習状況調査及びNRT、実力テストにおいて、全国平均を上回る生徒の割合（R4:63.6%）	65%	54%		83%	B	・全国学力調査では、国語・数学は50%、英語は70%であった。 ・9月の実力テストでは、1年生は71.2%、2年生は46.2%、3年生は35.2%であった。 ・1年生は目標を達成できているが、2、3年生は目標を下回った。	・課題のあった分野や領域の類似問題に繰り返し取り組ませ、課題を克服する。 ・学力に課題のある生徒については、基礎・基本を身につける方法を工夫する。（個別指導など）	○			・学年が上がるにつれて、理解度の差が広がっている。理解していない生徒への手立てをしっかり行ってほしい。 ・個別対応の充実を。
		幸崎思考力の向上	・シンキングツールの活用や協働的な学習を充実することで授業改善を図る。	・「シンキングツール等を有効に活用し、思考が深まっている」に対して、肯定的評価の割合（R4:69.9%）	75%	73%		97%	B	・昨年の同時期よりは達成値が上がっている。 ・シンキングツール活用ガイドなどを用いて取り組んだ成果が少しずつ出てきた。	・入門編に加えて活用ガイドの実践編を用いながら授業改善を継続し、研究授業などを通して教職員間で情報交流する。	○			・継続して授業に活用してほしい。 ・思考力、表現力、判断力の育成に向けて、ガイドを活用し授業改善に取り組んでいる。
		ICTの活用	・ICTの効果的な活用を研修し、授業等において積極的に活用する。	・「授業で、1週間にクロームブックを3日以上利用している」に対して、肯定的評価の割合（R4：66.7%）	70%	80%		114%	A	・授業改善により、各教科のICTの活用が進んだ。 ・家庭学習で用いるなど活用方法も工夫した。 ・教科により活用の偏りもある。	・活用方法を交流するなどしてさらに活用の機会を増やす。 ・ICT支援員の活用等，教員のスキルUPに取り組む。	○			・ICTの活用は、必須だと思う。進めてほしい。 ・積極的に取り組んでほしい。
豊かな心・健やかな体	自他を大切にし、ともに成長しようとする生徒を育成する。	自己肯定感の向上	・個々の良さを認め合える授業と行事を通して、居場所のある集団づくりを推進する。	・「自分の良さは周りから認められていると思う」に対して、肯定的評価の割合（R4:73.8%）	75%	72%		96%	B	・生徒同士で学び合う授業展開を多くの教科で取り入れることで、授業での活躍の場が多くある。 ・行事では、生徒が主体的に作り上げていく機会をたくさん設けておりまた、行事後の振り返りで、各学年において、互いを認め合える場を設定している。	・生徒が学びたくなるような課題や発問を提示したり、かかわり合いを必然的に持たせる授業を展開する。 ・行事では先輩から後輩へと引き継ぐ会を通して，伝統を引き継ぐ責任感を持つことで，自分の居場所づくりにつなげる。	○			・子供の主体性を大切に、授業や行事を取り組んでいる。 ・生徒が主体的に取り組める仕掛けが必要。
		異学年交流を通して互いに成長しようとする集団の育成	・縦割り班活動の充実を図り、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	・「小中合同での行事は自らの成長につながっている。」に対して肯定的評価の割合（R4:69.1%）	75%	68%		91%	B	・縦割り班活動の充実を意識して、取り組みを進めている。 ・今年度、初めて小学生が参加しての運動会を実施した。天候の関係で、一緒に練習する時間が確保できなかった。そのため，成長を実感できなかったとのではないか。	・引き続き、縦割り班活動の充実を意識して、取り組む。特に、互いの取り組みを評価し、認め合う場を設定する。	○			・縦割り班や異学年交流は、幸崎ならではの取り組みだと思う。継続してほしい。 ・小中の交流から生徒が安心して学ぶ姿勢が感じられる。
		健康の増進と体力の向上	・基礎トレーニングを充実し、体力・運動能力の向上を図る。	・持久力、柔軟性について3割の生徒が県平均を上回る	80%	持久力 58% 柔軟性 22%		持久力 73% 柔軟性 28%	持久力 C 柔軟性 D	・目標達成できた生徒は、 持久力（ｼｬﾄﾙﾗﾝ）：19人中11人 柔軟性（長座体前屈）：18人中4人 ・特に柔軟性に課題がある。	・体育の授業での柔軟運動を継続して行う。 ・柔軟性を高めることでケガの防止につながることや運動のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ向上につながることを理解させ、必要性を持たせる。	○			・柔軟性を養うための日々のストレッチ等が必要だと思う。授業での取り組みも継続してほしい。
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	郷土愛の醸成	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・（郷芸を通して）「自分には良いところがある」に対して、肯定的評価の割合（R4:69.1%）	75%	58%		77%	C	・各パートごとで、3年生のリーダーを中心に自主的な練習を進めている。 ・行事の経験不足から、リーダーとしての動きやパート内でのかかわり方で生徒自身が困る場面もある。	・これまで継続して取り組んできた自主的な活動（各パートリーダー中心）を継続していく。 ・経験を増やすため、全校（生徒会）や学級の生徒同士のかかわりを増やす取り組みを計画する。	○			・コロナの影響もあり、経験不足が見受けられる。今できる事を、取り組んでいってほしい。
		充実感・達成感に満ちた教育活動と教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在校時間の縮減（45時間以内）を徹底する。	・時間外勤務45時間以内の職員の割合（R4:77.7%）	80%	73%		91%	B	・見通しをもって取り組めるよう、行事予定を早めに提示している。 ・定時退校日や時間外在校時間を意識して業務に取り組むことができている。 ・学期はじめや行事前に、時間外在校時間がオーバーしがちである。	・見通しをもって取り組めるよう、引き続き行事予定を早めに提示し、各分掌や分担で確認する。（経営会議で進捗状況を確認） ・定時退校日や時間外在校時間を意識できるよう提示方法等を工夫する。	○			・町内の人や外部講師等の協力も考えてみてはどうか。 ・職員の健康第一に、ワークライフバランスを。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。